



わだち

一般財団法人 宮城県剣道連盟

第69回宮城県市郡対抗剣道大会・第40回宮城県女子団体対抗剣道大会 公開演武
令和5年9月17日(日) 会場 加美町中新田体育館

広報誌 第25号

(2024.4.1)

〒982-0845

宮城県仙台市太白区門前町2-1

電話 022(746)8461 FAX 022(746)8462

<https://www.miyagi-kendo.com>



宮城県剣道連盟創立70周年記念号

目次

ご挨拶

- 宮城県剣道連盟会長ご挨拶 P 2
- 理事長ご挨拶～この十年の歩み～ P 3
- 高体連／仙台高等学校 P 7
- 中体連／矢本第二中学校 P 7
- 聖ドミニコ学院中学校 P 8
- 第18回宮城県少年剣道講習会 P10
- 居合道部会 P15
- 杖道部会 P17

特集「70周年記念行事」

- 作品コンクール入賞者一覧 P18
- 東日本少年剣道錬成大会 P20
- 市郡対抗剣道大会・女子団体対抗剣道大会 ... P22
- 全国教職員剣道大会 P24

こちらのQRコードを読み取ると
宮城県剣道連盟ホームページが
ご覧になれます。



挨拶



一般財団法人 宮城県剣道連盟

会長 井上 雅勝

日ごろから、本連盟の活動にご理解、ご支援を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

まず初めに、この度の能登半島で発生した大地震により被害に遭われました皆様にご心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く日常生活を取り戻すことができますようお祈り申し上げます。

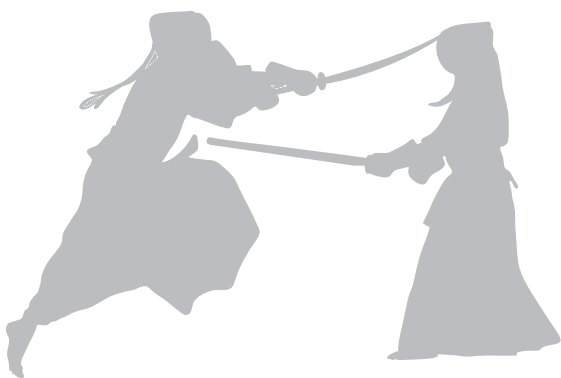
さて、令和五年度は、本連盟創立七十周年の節目の年に当たり各種記念事業等を実施し盛況のうち無事終了しました。また、県内外の稽古会・大会・講習会や審査会などはコロナ禍が沈静化し始めたことにより、多くの皆様が参加され目覚ましい成果をあげております。その中で、全国中学校剣道大会において聖ドミニコ学院中学校の稲富怜花選手が個人優勝、全国教職員大会では武田直大選手が個人戦で準優勝、全日本東西対抗

剣道大会で古畑健吾選手が優秀賞を勝ち取るなど輝かしい実績をあげています。その他にも多くの大会等でもう一步の結果を残しており、成果に結びつく更なる精進が期待されるところです。

新年度は辰年にあやかり、上昇気運をつかみ躍進の年にしたいと思っております。山積する諸課題や多様化するニーズに丁寧に応えながら、まずは、会員お一人お一人がこれまで以上に剣道に触れ親しむ機会を増やし、「剣道のすばらしさ」を体験・再確認し、ひいては多くの剣友を増やすことに繋がればと検討を進めております。剣道が日本の文化として更なる発展を続けるためには、これまで以上に剣道に対する積極的な取り組み、具体的には「剣道の理念」に基づいた多くの汗を流す実践的活動が必要な時期になっています。本連盟の活性化

を推進するためにも、引き続きご理解とお力添えをお願いいたします。

結びに、皆様にとりまして、この一年が健康で良い年になりますよう祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



宮城県剣道連盟創立七十周年

この十年の歩み



一般財団法人宮城県剣道連盟
副会長兼理事長 高橋 昭博

剣道は、昭和二十年の終戦後に連合国によって公の場所での稽古が禁止されましたが、多くの愛好者は「剣道という優れた人間形成の道を絶やしてはならない。良き伝統がつぶされたままでは日本は危うい」という強い思いから、復活に向けて各道場で稽古を続けました。昭和二十七年十月十四日、全日本剣道連盟が結成され、新しい時代の剣道を掲げ、試合場の区域や試合時間、三人審判制や反則に関するなどが定められ、翌二十八年、国は社会体育及び学校体育として公に認める事になりました。「剣道は青少年の心身の発達に寄与し、豊かな人間性を作り上げる」という基本的な理念が認められたのであります。

宮城県剣道連盟は昭和二十八年

四月一日に創立されました。初代会長は、宮城音五郎(当時の宮城県知事)、副会長は松川金七、菅野千代夫、理事長は遠藤又五郎の各氏でした。

同時に、各市郡、高体連、中体連などの各団体もそれぞれ組織を固め、大きく普及発展することになりました。昭和五十年代後半には女子剣道も隆盛を極め剣道人口のピークを迎えますが、一方では、本来の理念が疎かになつてきたとの声も聞かれるようになってきます。

その後、少子高齢化や運動種目の増加、また多様な価値観などにより剣道人口は減少傾向となりました。

創立七十年を迎え、本連盟の発展に貢献された多くの方々から心からの感謝と敬意を表すると共に、剣道理

念を改めて見つめ直し、これまで築き上げてきた宮城の剣道を正しく普及発展させ、次世代へ伝えて行くことが現代の剣士に求められていると感じます。

今回、「轍」を宮剣連創立七十周年記念号として発行し、創立期の精神を思い、この十年を振り返ることとしました。

この十年間は、東日本大震災からの復興を合言葉に、剣道の振興に努めてきました。加えて、コロナ禍や急激な人口減少などの対応に追われた十年でもありました。今後も剣道愛好家一丸となって、子どもたちの健全育成と生涯剣道の普及に努めてまいりたいと思います。

一、東日本大震災その後

平成二十三年の東日本大震災では、特に沿岸部被災地において剣道関係者も大変な被害を受け、剣道の復活も危ぶまれました。しかし、全国から多大なご支援を頂き、剣道具を流失された方々への購入補助や各道場・学校剣道場の環境整備など一日も早い復旧復興を願う支援活動が行われました。稽古が徐々に再開されると汗を流した子どもたちに笑顔が戻りはじめ「剣道の力」を再確認することとなりました。その年の十月には、「三陸沿岸剣道錬成大会(石巻桃生剣道連盟主催)」が開催されるなど、被災地の剣士達の熱心な取り組みにより復興の兆しも見えています。今後も県内愛好者が心を一つにして支え合い、一人でも多くの



人々が楽しく稽古のできることを心から祈念するものです。

二、第五十六回

東北・北海道対抗剣道大会

東北・北海道対抗剣道大会は、戦後の剣道禁止という時代背景の中で、東北各県の剣道連盟が、剣道復活の悲願達成のため、北海道剣道連盟と協議を重ね、昭和三十二年に河北新報社と北海道新聞社の協力の下、宮城県(後に東北各県持回り)と北海道を交互の開催地として実施される事になったものです。

第五十六回大会は、平成二十六年七月十三日(日)、仙台市青葉体育館で行われました。十三年ぶりの宮城県開催であり、「東北復興の礎」とするべく「あの日、夢・感動・再生」を合言葉に、十分な準備を経ての大会となりました。

大会には、バス十台を用意して被災された沿岸部の皆さんを招待するなど、二千名収容の会場は満員となりました。開会式後、全国からの多くの支援に感謝の意を込め小学六年生二十四名が「木刀による剣道基本技稽古法の演武」を行い、その後「雄勝復興太鼓」の演技がありました。閉会式後は長町中学校合唱部の「花

は咲く」、「ふるさと」が歌われ、最後は、場内すべての人の大合唱となり大きな感動に包まれました。

試合は、女子団体戦三対二で東北軍優勝、男子団体戦十六対十二で東北軍優勝となりました。宮城県選手の大活躍もあり、両軍選手の気迫あふれる試合は見ている人すべてに勇気をもたらしました。

三、第六十四回

全日本東西対抗剣道大会

東西対抗は、全国を東西に二分し、心技共に円熟した剣士を選抜して対抗試合を行い、剣道の真価を示す最も権威ある大会として位置付けられています。

本県では、第三回大会が昭和三十一年に宮城球場において二万人の大観衆を集めて開催され、さらに、第十回大会が宮城県スポーツセンターで開催されて以来の大会で、平成三十年九月二日(日)に仙台市青葉体育館で開催されることとなりました。大会成功のために三年前から視察を重ね、準備委員会、実行委員会を設立し万全の準備態勢を整えました。

大会は、二〇〇名を超える県内の役員・補助員の協力を得て、全国か



らの選手、役員、観客を招いてのビッグイベントにふさわしい大会となり、開会式には、村井宮城県知事、郡仙台市長からの祝辞もありました。試合に先立ち曾根孝悦教士八段、齋藤浩二教士八段による日本剣道形の演武があり、審判長遠藤勝雄範士の合図により試合が始まりました。試合は女子が四対二で東軍勝利、男子は、本県出身の氏家道男選手が見事大将戦を制し十八対十七で劇的な勝利となりました。本県選手も大活躍し、佐藤允伸選手は優秀選手に選ばれました。

満員の観客や地元役員・係員も、質の高い剣道を目の当たりにした満足感を得て、大会は大成功に終わりました。

四、全国高校総体剣道大会

南東北高校総体剣道大会は、平成二十九年八月九日～十二日に、カメイアリーナ仙台で、全国から一八八校七七六名の精鋭を集め盛大に開催されました。

大会は、気迫あふれる熱戦が繰り広げられ、本県選手も仙台育英学園が男子団体ベスト十六、女子個人戦では仙台育英学園高木選手がベスト十六と好成績を残しました。また、

四五〇名の高校生補助員が運営にあたり大会成功の原動力になったことは、大震災時の全国からの支援に対する感謝の心を表すことにもなり、選手、係員、応援、先生方、観客が一体となった素晴らしい大会となりました。

五、財団法人化

スポーツを取り巻く社会環境の変化から検討を進めてきた宮城県剣道連盟の法人化は、平成二十九年五月の理事会・評議員会において方針が確認されました。

翌平成三十年五月六日の評議員会で定款他各種規則が承認され、東北では初となる一般財団法人宮城県剣道連盟が設立されました。このことにより、法の下で組織の内部統制を確保し、より透明性の高い運営を行い、一層の発展を期すこととなりました。

六、新型コロナウイルス感染症

令和二年一月から、新型コロナウイルス感染症が世界で急速に拡大しました。剣道の稽古でも集団感染が発生し、全剣連では四月五日に「当面、対人稽古を中止」する事を発表しました。愛好者は各自一人稽古を

工夫するなど、かつてない状況となります。

六月四日、全剣連は「対人稽古自粛の解除」を通知し、稽古再開となりましたが、感染防止のため「面マスク」「シールド」の着用を義務づけ、大会・審査稽古等のガイドラインを作成し、感染防止対策の下での再開となりました。コロナに対応した「暫定的な試合・審判規則」が作成され、以後令和六年の現在まで続く事となりました。

七、剣道人口減少

本県剣道人口は、平成二十六年から令和四年の十年を比較すると、幼年が一、三五〇人から九五二人、中体連が二、六五〇人から二、七九一人、高体連が一、二五人から七四九人、初段は九五五人から七八八人と深刻な減少傾向が続いています。しかし、子どもたちや保護者の中には、剣道に興味関心の高い層が一定数あると思われる、参加しやすい環境の設定ときっかけ作りが大切と考えられます。

全剣連においても重要課題としており、全国各地で様々な取り組みが行われています。次世代への伝承のためご協力をお願いします。

八、部活動地域移行化

学校剣道は、剣道連盟の土台として普及発展に大きな貢献がありました。特に中学校の部活動は多くの生徒諸君が剣道と出会う場としての役割を果たしてきました。

今、中学校部活動の地域移行や任意加入制が進んでいます。地域移行は、自治体や学校により様々な形態が出てきます。当面は休日の活動が地域が支援することとなり、地域が行う合同練習や学校内での外部指導者による活動等が想定されます。

部活動衰退を防ぐためには、校内での活動を地域の指導者が支援し、学校としての活動を行うことが望ましいと考えます。それができない場合は、合同の練習会を地域で開催し、男女・各年代の指導者のもと剣道の魅力を伝える体制構築が大切です。この機に指導者として時代に合った指導法を身に付け、正しい剣道普及にご協力をお願いします。

九、これからの剣道・居合道・杖道

宮城

剣道・居合道・杖道は、日本の伝統文化として宮城の地にもしっかりと根付いた武道です。それぞれ会員の高齢化や人口減少など課題はあり

ますが、自己の求道心を持って稽古に励んでいる皆様に敬意と感謝を表します。社会環境は変化していきませんが、各道の本質は変わりなく、皆様の活動が生涯続きますよう祈念いたします。

居合道においては、各先生方が稽古を重ね組織力も高く、その普及発展は素晴らしいものであります。特に佐々木幹彦先生の範士号授与並びに庄子都代子先生の八段合格は、本県居合道のこれからの明るく照らすもので大変喜ばしいことであるます。

杖道においても村上直隆先生が範士号を授与、村上和繁先生が八段に合格されました。また全国杖道大会では、毎年上位の入賞者があり本県のレベルの高さがうかがえます。今後一層の活躍と普及発展を期待いたしております。

さて、本県剣道は、他県より継続率が低い傾向にあります。子どもたちから高齢者までの稽古継続が大きな課題であり、互いの連携を深めて頂きたいと考えます。

そのような中、令和三年に女子剣道研究会が発足し、一般の女性剣士が徐々に増加し高段位に挑戦されていることは、大変喜ばしいことであり

ます。本県女子剣道の質が一層向上し有能な指導者や剣士が多く活躍されるよう期待しております。

剣道人口減少の対応には、新たな取り組みも必要と考えます。所属や団体の枠を越えて、一人の少年剣士を剣道関係者全員で育てる意識を持ち、「できたことを褒める」指導を心がけ子どもの自発性を引き出すことが大切と考えています。

また、全剣連は「剣の理法の説明版」を作成し、普及活動を進めます。指導者はよく研究し理解を深め、自分の言葉で「剣の理法」を子どもたちに分かりやすく伝えて行くことが求められます。剣道の本質を正しく伝承するため、自身の剣道の質の向上に努め、「心法」・「刀法」・「身法」の修錬により、自己の目指す見事な技が実現できることを最大の喜びとし、生涯剣道へと誘い、剣道を通した「青少年の育成」、「人間形成」を達成できるとご支援のほどお願い申し上げます。

十、年表

【平成二十六年年度】

五月十一日

第一回東日本少年剣道錬成大会
(グランディー21)

七月十三日

第五十六回東北・北海道対抗剣道大会
(仙台市青葉体育館)

【平成二十七年年度】

五月十日

段位審査料等の改正

八月二十二日

剣道七段審査(仙台市青葉体育館)

八月二十三日

剣道六段審査(仙台市青葉体育館)

二月二十八日

剣道八段審査(仙台市青葉体育館)

【平成二十八年年度】

五月八日

安全医事専門委員会新設

【平成二十九年年度】

八月十～十二日

全国高等学校剣道大会
(仙台市体育館)

十月二十二日

全国道場対抗剣道大会・全国道場
剣道選手権大会(仙台市体育館)

【平成三十年年度】

五月六日

武道等支援事業専門委員会新設

宮城県警察剣道連盟新規加盟

五月二十一日

一般財団法人宮城県剣道連盟設立

九月三日

全日本東西対抗剣道大会
(仙台市青葉体育館)

十二月三十日

剣道八段合格 名生伊智郎

【平成三十一年度・令和元年度】

十二月コロナ発生

【令和二年年度】

四月からコロナにより対面稽古が
禁止され大会、講習会等が中止と
なる

五月三日

居合道範士号授与 佐々木幹彦

五月十七日

理事会評議員会六月二十八日へ
延期

六月二十八日

小澤仁邇会長、田所清三・千葉
克彦・柴田和彦・今野和美の各
副会長にご勇退。新体制として井上雅勝会長、今村
幹雄・大泉貞房・佐藤悦朗・齋藤浩二の各副会長、高橋昭博副会長
兼理事長 佐々木栄幸・庄司径一・
遠藤清吾副理事長が就任

三月十四日

全日本剣道選手権大会男女が
長野市にて開催

長野市にて開催

長野市にて開催

【令和三年年度】

・コロナ禍により、全国大会予選
以外の大会は原則中止とした。

五月三日

杖道範士号授与 村上直隆

五月十六日

女子剣道研究会発足

八月九～十二日

全国高等学校剣道大会
個人 第二位

個人 第二位

渡會剛生(仙台育英)

【令和四年年度】

七月二十七～二十八日

全国道場少年剣道選手権大会
中学生女子の部 優勝

久保琳音(若柳中・二心堂)

八月十九～二十一日

全国中学校剣道大会
女子団体 第二位

女子団体 第二位

聖ドミニコ学院中学校

十一月二十六日

居合道八段合格 庄子都代子

【令和五年年度】

宮城県剣道連盟創立七十周年
記念事業実施

八月一～三日

全国中学校剣道大会
女子個人 優勝

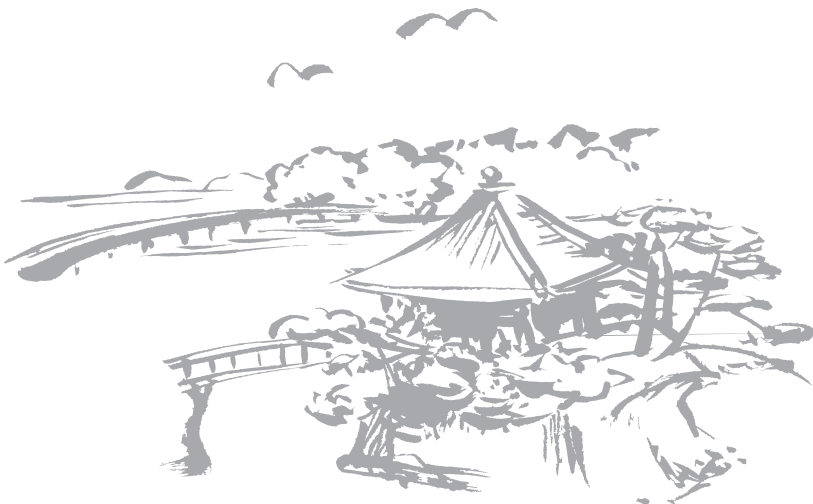
全国中学校剣道大会

女子個人 優勝

稲富怜花(聖ドミニコ学院中学校)

三月八日

杖道八段合格 村上和繁



高体連

All Japan High School Athletic Federation

「私の剣道」



仙台市立仙台高等学校 武藤 凜 選手

私は小学校一年生の頃から兄の影響で剣道を始めました。初めの頃はなかなか試合に勝つことが出来ず、何度も

剣道をやめたいと思いました。それでも、同じ道場の仲間に支えられ、続けることができました。中学生の頃は、女子が少ない中で男子の先輩方と稽古をしていた環境が私を強くしてくれたと思います。

私は、仙台高校に入学し、剣道部の部員として活動することが出来てとても嬉しく思います。入学した当初は、慣れない学校生活の中で部活をしていくことに苦労しました。しかし部員達と一緒にいると、自分自身の成長を感じられ、多くのことを学ぶことが出来ました。私が高校三年間の部活動を通して、大切にしていたものがあります。それは、自分にしか出来ない剣道を探すことです。高校一年時に、顧問の先生から自分の剣道を見つけて欲しいと言われ、その時から自分にしか出来ない剣道を研究するようになりました。今回の全国大会では、いままで稽古で身に付けてきた、中心をとって、構えをくずさない自分の剣道が出来たと思います。これから先も自分にしか出来ない剣道を大切に、自分の剣道を追求していきたいです。

中体連

All Japan Junior High School Athletic Federation



東松島市立矢本第二中学校 酒井 新太 選手

私は中学校入学時から、全国大会に出場し全国の強い選手と試合をすることを目標に稽古に励んできました。これまでは、試合で自分の剣道が中々できず、苦しい時期もありました。そのような時に自分を支えてくれたのは、ご指導いただいた先生・先輩方と剣道部や道場の仲間たちです。共に稽古に励む仲間が存在があったからこそ、諦めずに稽古を続け、全国大会に出場することができました。

愛媛県で開催された全国大会では、1回戦から落ち着いた状態で試合に臨むことができ、各県の代表選手相手

「目標」



に、自分の剣道を崩さずに戦うことができました。準々決勝では、相手の技を警戒し、中々自分の技を打ち切ることができずに延長戦となりました。相手の攻めが強く、崩れた一瞬の隙を捉えられ面を決められてしまいました。悔しさの残る試合となりましたが、目標としてきた全国の強い選手と試合ができたことは、自分にとって大きな経験となりました。

支えていただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも一生懸命剣道に取り組んでいきたいと思っています。



All Japan Junior High School Athletic Federation

「第53回全国中学校剣道大会 女子個人 優勝」 「第47回東北中学校剣道大会 女子団体戦 優勝」



聖ドミニコ学院中学校

「三年間の変化」

入学当初は、技術面も気持ちも弱く、部内戦をすれば全敗。試合で負ければ泣く。このような私は三年間やりきれぬのかと不安に思うこともありましたが、小学生の頃に達成できなかった大きな結果を残したいと思い、努力しました。その結果、仲間のお陰で立ったことのない東北、全国の舞台で戦うことができ良かったです。どんな時も傍で支えてくれた仲間、ここまで成長させて下さった和代先生、怜央先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

澤村 ここみ 選手

「チーム力の大切さ」

ドミニコ中に入ったら強くなるね。そんな甘い考えで入学した私は、すぐに現実には甘くない事に気づきました。強くなるためには技術面だけでなく挨拶、返事、行動などの生活面も気を付けなければいけません。そして、私が何よりも大切だと思っている事がチーム力です。チームは一ヶ月や二ヶ月ではなく、三年かけて作られます。私達はこの三年間でどこにも負けないチーム力で勝ち上がりました。高校でも生活面やチーム力を生かし、頑張ります。

佐々木 仁菜 選手

「頑張ることについて」

私はドミニコ中に入学して、頑張ることの大切さを知りました。小学生の頃、頑張ることがあまり好きではありませんでした。でも、ドミニコ中剣道部に入学してからは考え方が一変しました。頑張れば頑張るほど自分に自信がつき、心身共に強くなりました。小学生の頃の自分のままだったら、試合でも怖くて技が出なかったと思います。高校に進学しても、和代先生の教を胸に頑張ります。

橋本 望夢 選手

「感謝」

私は、県、東北、全国大会に出場し、良い成績を残すことができ、とても嬉しかったです。このような結果を残すことができたのは、日頃から一緒に練習してきた仲間、応援やサポートをしてくれた保護者の方々のお陰です。

そして、三年生の先輩方と一緒に試合に出場でき、嬉しかったです。本当に応援してくださった方々に感謝しています。ありがとうございました。

橋本 倅 選手



「感謝」

私はこの一年間、全国制覇という目標を達成するために大切にしてきたことがあります。「当たり前のことを当たり前だと思わない」これは顧問の佐々木和代先生から教えていただいたことです。大好きな剣道ができること、忙しい時でも送迎をしてくれる保護者の方がいること、仲間や先生がいること。何をやるにも周りの支えがあってこそ頑張れると思います。この先も感謝の気持ちを忘れず、次の目標に向かって邁進し続けます。

稲富 悠花 選手

「諦めない気持ち」

聖ドミニコ学院に新しく赴任した菅原怜央先生と共に昨年の結果を上回るべく、顧問、生徒、保護者一丸となって稽古に励んできました。赴任して九年目を迎えたこの夏、全国大会で団体二年連続予選リーグを突破し、ベスト16、個人では稲富怜花が悲願の日本一を達成してくれました。

ここまで来ることができたのは、幼少期から生徒たちを大切に育ててくださった少年剣道及び各道場の先生方、常に家庭で支えて下さった保護者の方々、御指導して下さった先生方のお陰です。心から感謝しております。今後とも御指導よろしくお願ひします。

顧問 佐々木 和代 先生

「仲間と共に」

私は全中の団体戦で流れを作れず、チームが負けたことが悔しくてたまりませんでした。それでも個人戦の日、仲間達は一生懸命応援してくれました。その姿がとても嬉しくて、一緒に日本一になるんだと強い気持ちで戦うことができました。私が全国の舞台上で花を咲かせることができたのは、仲間や応援してくださった方がいたからだと思います。中学校の三年間は私にとって一日一日が宝物のようでとても幸せに感じています。沢山の方々に支えていただいたことへの感謝の気持ちを忘れず、高校でも努力して日本一になります。

稲富 怜花 選手

「人生の宝物」

昨年、先輩方が成し遂げた東北大会優勝。昨年に続いて二連覇できたことは自分の宝物です。部員全員で、全国制覇という目標を掲げ、切磋琢磨しながらの三年間は、仲間とすれ違うこともありました。最高の思い出となりました。中学校での貴重な経験をここで終わらせず、更に感謝の気持ちを忘れずに高校でも新たな目標に向かって、夢を実現できるように精進していきたいです。

及川 文伽 選手



第18回 宮城県少年剣道講習会

日時：令和5年12月17日(日) 場所：名取市民体育館

各地の少年剣道四十六団体、百八十三名もの剣士が参加しました。今年度の講師は、警視庁第一機動隊に勤務し、第十七回世界剣道選手権大会、男子団体優勝、第六十九回全日本剣道選手権大会、優勝という輝かしい成績を収めた星子啓太先生です。星子先生からは、「今日一日で強くなるということは絶対ない。持ち帰ってどう生かすかを考え、道場の先生の話聞いて日々頑張ることが大事。」とお言葉をいただきました。

開会の挨拶では、宮城県剣道連盟井上雅勝会長より、「日本を代表する若手選手の一人である星子先生をお招きしました。先生の素晴らしい技などを教えていただきたいと思います。先生を目標にしっかりと勉強する機会にさせていただきました」との挨拶がありました。

閉会の挨拶では、同連盟庄司径二副理事長より、「今日は充実した講習会になりました。稽古を続けて、将来星子先生のように立派な選手に



なつてほしいと思います。」とお言葉をいただきました。

一 開会式

(一) 開会挨拶

宮城県剣道連盟会長

井上 雅勝

(二) 講師紹介

幼少年普及委員長

千葉 弘勝

(三) 受講生代表「歓迎の言葉」

岩沼西少年剣道錬成会

横澤 樹李君

星子先生、本日は遠い所からお越しくださりありがとうございます。今日は、星子先生に会えることをとても楽しみにしていました。星子先生のご活躍は、いつもテレビやYouTubeで拝見しています。一番印象に残っているのは、第六十三回全国高等学校剣道大会の決勝戦です。最初は一本を取り、それから二本取





られての勝負、初太刀のきれいな飛び込み面は見えていて鳥肌が立ちました。僕も、星子先生のような勝負強さを発揮できるように日々の稽古に励んでいます。今年の十月、僕は埼玉県で行われた全国道場少年剣道選手権大会小学生男子個人の部宮城県代表として出場しました。二回戦目で、星子先生の出身地である鹿児島県の代表の選手と対戦しました。返し技や自分から攻める技を仕掛けるのが上手な選手で、僕は二回戦敗退となりました。とても悔しかったです。今日は、数々の大会を制覇してきた星子先生に教えていただきたいことがたくさんあります。その中でも、あの動画で見た飛び込み面。もう一つは、今、自分ももっと上手になりたいと思ってる小手面です。星子先生から一つでも多くのことを学べるよう、一所懸命稽古に励み、次につなげるべく努力することを約束します。今日、こ

の剣道講習会に参加できることに感謝いたします。星子先生、今日一日どうぞよろしくお願いします。

二 講師指導による基本錬成

(一) 午前の部

はじめに、星子先生は「自分の言っていることや習慣を聞いて、良いなと思ったら真似をする気持ちで取り組んでほしい。」と述べられました。※準備運動後の基本稽古(素振り、基本打ち)・・・別ページ「練習内容」を参照。

(二) 午後の部

稽古内容は、別ページ「練習内容」を参照。

三 閉会式

(一) 講師講評(星子啓太先生)

皆さんにとって有意義な時間になったかはわかりませんが、私は今日一日一緒に剣道ができて幸せでした。また一緒に剣道ができたらうれしく思います。今日教えたことの中には、私の持論があるので、自分合うなと思ったことを少し取り入れてみてください。来年、イタリアで世界大会があります。まだ選手は決まっていないのですが、団体・個人ともに優勝することを目指しています。皆さんも、何か目標を持って頑張ってください。また皆さんと稽古や試合ができることを楽しみにしています。

(二) 受講生代表のお礼の言葉

六郷剣道スポーツ少年団剣道部

千葉 沙月さん

星子先生、今日は忙しい中、私たちのために東京から来てくださりありがとうございます。私は全日本選手権を見て、今日をとても楽しみにしていました。素振りの練習では、打った姿勢の状態で止めることがつらかったです。円の足さばきでは、左回りがうまくできなかつたので、道場に帰ってから練習したいと思いました。今日、星子先生に教えてもらったことを、各道場に持ち帰って、稽古の中で意識していきたいと思えます。今日は本当にありがとうございました。

(三) 閉会の挨拶

宮城県剣道連盟副理事長

庄司 徑二





講師紹介


ほしこ けいた
星子 啓太先生



1998年9月4日 鹿児島県始良市出身

〈九州学院高等学校〉
インターハイ団体 優勝2回、個人優勝1回
玉竜旗剣道大会 優勝2回

〈筑波大学〉
インカレ 団体、個人 優勝各1回
世界剣道選手権大会 団体優勝

2021年 全日本剣道選手権大会 優勝

	練習内容	○指導、注意事項
	(1)準備運動	
素振り	(2)素振り ①前進後退上下素振り 30本 ○速く振ろうとしない。形を意識する。 ○振り下ろしたときに下で止めない。 ○ゆっくり大きく動かす。 ○かかとかが付いたりつま先が浮いたりしないようにする。 ②前進後退正面素振り 50本 ○足を大きく使う。 ○打った形を残す。先生の掛け声があるまで打った姿勢を保つ。 ③前進後退左右面素振り 50本 ○打った軌道をたどって竹刀を振る。 ○左手が中心からずれないように振る。 ④早素振り 50本 ○足を大きく使う。 ○剣先があごの高さになるまで振り下ろす。	 
足さばき	(3)円の足さばき(右回り・左回り) ○左足が前に出ないようにする。 ○視線は相手がいると思って前を向く。	 
切り返し	(4)切り返し ○左右面素振りを意識して行う。 ○相手の耳くらいまで竹刀が降りるように振り下ろす。 ○ゆっくりでもいいので正しくやる。 ○最初・途中・最後の面打ちをしっかりと打つ。 ○間合いの外で気合の発声をしてから自分の打ち間に入る。 ○打った後の残心をしっかりとする。	
技の練	(5)小さく面打ち ○竹刀の振り上げをしっかりとする。 ○左足を継がずに打つ。 ○足から動き始める。右足が地面につきそうになった瞬間に思い切って竹刀を振る。 ○自分の打ち間に入ってから技を出す。	
	(6)小手打ち ○上から打つ。 ○スピードを意識しすぎない。力を入れすぎず、足で打つ。 ○相手の竹刀の中結いの上あたりにポイントを作り、そこを必ず通過するイメージで打つ。	
	(7)面の打ち込み 連続5本 ○間合いの外から気合の発声をする。 ○息を長く使う。振り返るところまで声を伸ばす。 ○リズムで打つのではなく、1本1本工夫をして打つ。 ○構えたときの剣先に集中をする。 ○きつと思うときこそしっかりと声を出して呼吸をする。	
切返	(8)切り返し ○大きく動作をする。 ○声をしっかり出す。	
	(午前の部終了)	

		練習内容	○指導、注意事項
切返		(9) 切り返し	
	応用技	(10) 出端面	<ul style="list-style-type: none"> ○相手が「来そう」というところに面を打つ。 ○構えているときには相手の竹刀を触る。 ○自分から入っていくぞという気持ちで構える。 ○元立ちも集中する。元立ちが大切。
(11) 元立ちが入ってくる場所に面		<ul style="list-style-type: none"> ○元立ちも面を打ちに行く。 ○お互いに本気で勝負をする。ずるをしない。 ○相手が「来そう」というところに面を打つ。 ○少しでも遅れると面を打たれるという緊張感を持つ 	
(12) 二歩攻めて入ってくる場所に面		<ul style="list-style-type: none"> ○元立ちは二歩下がって一歩攻める。 	
(13) 出端小手		<ul style="list-style-type: none"> ○相手が「来そう」というところに小手を打つ。 ○中結いの上のところポイントを取って打つ。(6)参照。 ○相手が前に出てくるので、その場で打つように間合いに注意する。構えの位置を「0」、打突の位置を「10」とすれば、相手が「5」出てくるなら自分は「5」出ればいい。合計で「10」になるように、自分の体を捌く。 	
(14) 面返し胴		<ul style="list-style-type: none"> ○相手の竹刀をすりあげるようにまっすぐ受ける。 ○受けるときに竹刀を横にしない。 	
(15) 飛び込み面に対して返し胴		<ul style="list-style-type: none"> ○相手に「打ったら返されるのではないか」という恐怖心を与える。 	
稽古	(16) 引き面	<ul style="list-style-type: none"> ○仕掛け技と同じことを意識する。攻め・残心・先に打つなど。 ○「気迫・気合」「間合い」「打つ機会」の3つの調和に即して考える。 ○間合いを作る。相手を下げるか自分が下がる。 ○感染症対策でルールが変わったが、間合いを切るタイミングを自分で作っていくことで、相手に油断を生む。 ○少し押す動作を入れ、プレッシャーをかける。 ○相手が下がろうとする瞬間に、足を開いて少し体を沈ませながら踏み込む。 ○バネのように伸びながら残心をする。 	
	(17) 指導稽古		



◎ 少年少女剣士より

Q 何歳から剣道を始めましたか？

A 小学校1年生のときです。

Q 試合のときに一番大切にしていることは何ですか？

A 技術的なところでは、間合いに入るところと打った後、別れ際を打たれないということの3つです。集中して意識していれば打たれないところです。気持ちの面では、自分の全てを相手にぶつけるということだけを考えています。

Q なぜ剣道を始めようと思ったのですか？

A 2つ上の姉が剣道をしたいと言ったことに影響されて始めました。本当は野球かサッカーをしたかったのですが、初めはいいややっていました。

Q 試合前にはどんなことを考えるようにしていますか？

A 自分のやってきたことを全て相手にぶつけるようにしています。今までやってきたことを振り返ると闘争心が湧きながらも、リラックスできて、一番良い状態で試合に臨めます。

Q 機動隊の練習はどのような感じですか？

A 警視庁の機動隊の中でも試合に出ている人たちと一緒に練習しています。朝稽古、午前稽古、午後稽古の他、若手の稽古や自主練習的な稽古をしています。

Q 剣道にはどのような気持ちで取り組んでいますか？

A 強くなりたい一心でやっています。剣道を始めたときに、父から「やるからには1番を目指さない」と言われたので、日本一を目標にしています。宮崎正裕先生の記録を更新したいという気持ちを持っています。

Q 今まで重ねてきた練習の技の中で、一番頑張った技は何ですか？

A 小手打ちです。中学生までは面が多かったのですが、九州学院が小手を重視していたので練習しました。手が腫れて小手が入らなくなるほど練習をしました。

Q 剣道を始めて、今まで一番大変だったことは何ですか？

A 悔しかったことといえば、大学3年生のとき、全日本学生団体戦決勝戦で、自分が大将で引き分ければ優勝だったのに2本負けしてチームが負けてしまったことです。4年生の先輩が「目指していた日本一を達成できませんでした。一番悩んだことといえば、大学2年生で世界一になった後、いろいろな方に指導をされて、自分の剣道が分からなくなってしまったことです。

Q うまくいかないときや試合で負けたときに、気持ちを切り替えるコツはありますか？

A うまく切り替える方法はないと思います。ふっさきてもういいやと思うか、悔しいから頑張ろうと思うかの2つしかないと思っています。自分は悔しさから逃げないということを入念に入れて、苦しいしやりたくないけど、もう1本、あと1回やっていると、良いことをしている気持ちになり、自分にとってプラスになると感じています。将来的に自分が喜びたいと思っています。

Q 全日本で優勝したときはどんな気持ちになりましたか？

A 感謝の気持ちでした。親や地元の先生、大学の先生に後押ししてもらったので、優勝できてよかった、ありがとうございます、という気持ちでした。

ほしこ けいた
星子 啓太先生に

質問コーナー
Question and Answer

◎ 休憩時間に

Q 踏み込むときに足が痛くなりませんか？

A 踏み込み方が悪いのだと思います。遠くに飛ぼうとするとつま先を上げてかかとからついてしまいます。足の裏を床と平行にすると良いと思います。高校生のときは、ジャンプして足の裏全面で着地する練習をしました。

Q 小手をうまく打つコツはありますか？

A 小手に竹刀を押し付けるのではなく、皮一枚を打って剣先を上げるようにしています。竹刀を避けようとする打ちが曲がってしまうので、上から叩き割るように竹刀を操作します。

Q 小学生のときに意識していたことはありますか？

A 打つタイミング、打つべき機会を見つけるようにしていました。大人になってからはあまり学ぶ機会がなかったと感じています。

◎ 広報委員より

Q 小学生のときは週に何回練習していましたか？

A 週に5回練習していました。

Q 休みたいと思うことはありませんでしたか？

A 最初はあまり興味が持てず、休みたいという気持ちになることもありました。でも、負けるのが嫌だと思うので、頑張りました。

Q 試合で緊張するときは、どんな方法で緊張をほぐしますか？

A 試合で緊張はあまりしません。ルーティンが何個もあり、それが緊張せずに試合に臨める心の支えになっています。

Q ルーティンはどのようなものですか？

A 前日の分があるのですが、説明しきれません。試合直前で言えば、正座をするとき、面から小手を出すとき、面を着けるとき、試合を見ているとき、試合場に入るときなどたくさんあります。例えば、1試合前になったら跳躍素振りを10本やる、など決めています。ルーティンをしないと気持ち悪い感覚になるので、必ずやっています。

Q 子どものときは、どんな自主練をしていましたか？

A ランニングをメインにやっていました。剣道をやっていた母が、足腰が大変だからランニングをしなさいと教えてくれました。

Q 気持ちが折れそうになったときのメンタル維持はどのようにしていますか？

A 悔しかったことを思い出すのが一番です。また負けるぞと自分に言い聞かせます。

Q 剣道をしていて一番の思い出は何ですか？

A 初めて日本一になったときです。団体戦でした。剣道を始めたときからの目標だったので、うれしかったのを覚えています。

Q 注目されることのプレッシャーはありませんか？

A あまり気にしていません。

Q 座右の銘を教えてください。

A 「執念」です。やると決めたら絶対にやり遂げるぞ、という気持ちです。

◎ 少年少女剣士の感想

- 星子先生は一番のあこがれの選手なので、直接アドバイスをもらえてうれしかったです。(6年男子)
- 星子先生の小手がとても速かったです。教わったように素振りもしっかりやりたいと思います。(6年男子)
- 教え方がとても分かりやすかったです。(5年男子)
- 星子先生は初めて会いましたが、自分がいつもやっている素振りと違ったので、びっくりしました。(6年女子)
- いつも学んでいることを詳しく教えてもらったので、うれしかったです。(6年女子)
- 稽古は少しきつかったけれど、楽しくておもしろかったです。(5年女子)

居合道部会



令和五年度 居合道部会活動について

居合道部会は県内各地域の二十八団体が加盟しており、多くの会員が日々居合道の修練に励んでおります。今年度の主な活動について報告いたします。

一、段位審査会

◇第一回段位審査会

令和五年四月三十日(日)

宮城県武道館

初段～五段合格者(計三十六名)

◇第二回段位審査会

令和五年十一月十九日(日)

宮城県武道館

初段～五段合格者(計二十八名)

一、全国審査会 ※(一)は開催地

◇七段合格者(計三名)

令和五年三月五日(土)(京都)

合格 関根 俊久

令和五年七月二十一日(金)(栃木)

合格 竹田 孝一・佐藤 恒雄

◇六段合格者(計七名)

令和五年三月五日(日)(京都)

合格 鈴木 宏明

令和五年七月二十一日(金)(栃木)

合格 犬飼 惠梨香・石塚 裕明

令和五年十二月十日(日)(東京)

合格 渡邊 王志・武石 敏光・

高橋 清一・佐藤 一雄

◇教士合格者(計二名)

令和五年十一月十五日(水)(東京)

合格 松本 満知子・本郷 幸七

◇錬士合格者(二名)

令和五年十一月十五日(水)(東京)

合格 今野 幸夫

一、宮城県居合道大会

令和五年六月四日(日)

松島町B&G海洋センター

宮剣連井上雅勝会長より御挨拶を賜り、第五十一回宮城県居合道大会を開催いたしました。猛暑の中、選手は日頃の修練の成果を發揮すべく真剣に試合に臨みました。

一、東北居合道大会【派遣】

令和五年九月二十四日(日)

岩沼市総合体育館(ビッグアリーナ)

本県を会場に、第五十一回東北居合道大会が開催されました。上位入賞を目標に、昨年度から特練

会を実施し、選手強化を図ってきました。大会ではその成果が十分に発揮され、県對抗団体戦では、第二位の成績を収めることができました。また、開催県として、事務局が中心となり準備、計画を進め、多くの会員が運営にあたり、大会を成功裡に終えることができました。

監督 赤塔 徹 教士七段
 助監督 早坂 敏雄 教士七段

◇県對抗団体戦

第二位

◇段別個人の入賞者

六段の部 日向 裕昭(第三位)
 五段の部 渡邊 王志(優勝)
 四段の部 作間 光彦(第二位)

一、全日本居合道大会【派遣】

令和五年十月二十一日(土)
 東京武道館

第五十八回全日本居合道大会が開催されました。

監督 布田 孝一 教士七段
 助監督 鈴木 正信 教士七段
 七段の部 佐藤 将傑(二回戦)
 六段の部 狐塚 理沙(一回戦)
 五段の部 渡邊 王志(二回戦)

一、居合道中央講習会

地区講習会【派遣】
 令和五年七月二十二日(土)
 二十三日(日)
 栃木県立県南体育館

第五十回居合道中央講習会・地区講習会が開催されました。本県は、村上和繁教士七段と松本満知子錬士七段を派遣しました。後日、伝達講習会および全日本居合道大会、六・七段審査会の各強化稽古会において、両先生から伝達講習していただきました。

一、居合道特別講習会

令和五年七月二十九日(土)
 三十日(日)
 宮城県武道館

全日本剣道連盟居合道委員長居合道範士八段草間純市先生による特別講習会を開催いたしました。真夏の二日間、草間先生から氣迫溢れる熱い御指導を頂きました。「仮想敵を実在する敵として捉え、形ではなく真に斬る居合をするにはどうしたらよいか?」「彼我の状況を正しく理解し、理に合った刀捌き、体捌きで敵に勝つにはどうしたらよいか?」このことを常に意識し、考えることが大切であ

ると説いてくださいました。また、受講者の質問に対しても、一人ひとりの修行段階や個性を踏まえて、わかりやすく丁寧な御指導くださいました。受講者は、草間先生の流れるような素早い動きに集中するとともに、その奥深い御言葉の一つ一つを噛みしめながら熱心に受講していました。

受講者

二十九日(土)・・・四十六名
 三十日(日)・・・四十六名

今年度、第五十一回東北居合道大会では県對抗団体戦第二位という好成績を収め、また、六・七段昇段審査では、例年にない多くの合格者を輩出し、本県のレベル向上を実感できた一年でした。これも、草間範士による特別講習会の開催や特別講習会の実施など、これまでの選手強化対策が実を結んだものと言えます。令和六年度はさらなる高みを目指し、宮剣連井上会長を始め、役員の皆様の御指導の基、居合道部会員一同一層精進

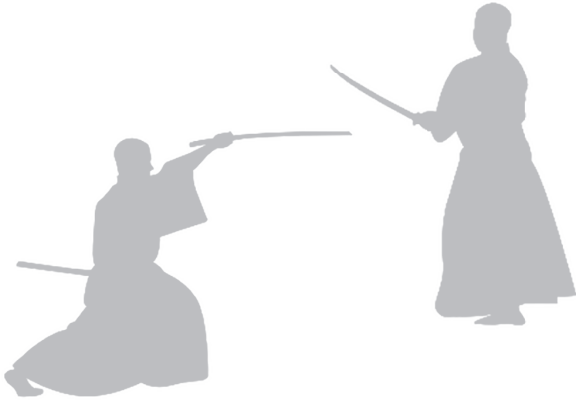


して参ります。

末尾ながら、居合道部会では、居合道の普及と会員拡充のため、ホームページによる情報発信に力を入れております。次のQRコードをお読み取りいただき、御高覧いただければ幸いに存じます。

執筆者

居合道部会広報部 石塚 裕明



杖道部会

令和五年度 杖道部会活動報告

令和五年度杖道部会活動報告を、月ごとに事柄を述べて行きます。

令和五年五月二日は京都で京都大会が開催され各種の形、杖道に五組十人の参加を致しました。

同年五月二十

日(土)～二十一日(日) 山形県で第二十五回東北剣道主催杖道講習会が開催され本県より十四名の参加を致しました。

この講習会では本県の先生方が講師として任に当たりました。

六月には当部会主催の講習会・審査会を二十四日(土)～二十五日(日)に岩沼市で開催しました。

今回は仙台市での会場を二日間取得することが出来ず、思案していたところ、岩沼の先生の御力で会場を確保する事が出来ました。

講習会には二十五名程の参加があり、講習生は全剣連杖道解説書に基づく基本動作、形を行い正し

い姿の確認をしていましたが、両日は六月にしては気温が高く体調を崩さないかと心配しましたが、体調不良を訴える講習生はなく無事終了する事が出来ました。

その後の審判会では全剣連杖道段位審査規則・細則並び同実施要領に即した段位審査を行い受審者全員が合格しました。

同時に東北各県より委託審査も行いました。

八月には兵庫県姫路市で全剣連の中央段位審査会・中央地区講習会が開催され本県から講習会には七名参加致しました。

九月は皆様もご承知と思いが、中新田体育館で開催された宮城県剣道連盟七十周年記念剣道大会で公開演武をさせて頂き杖道を皆様に知って頂く良い機会になりました。

この後もこのような機会があれば演武をさせて頂きたいと思っております。

十月には神奈川県横浜市で第五十回全日本杖道大会が開催され当県より二段、五段から七段に五組

十人出場致しました。

この大会で二段、五段で三位七段は準優勝を得て良い成績を残すことが出来ました。

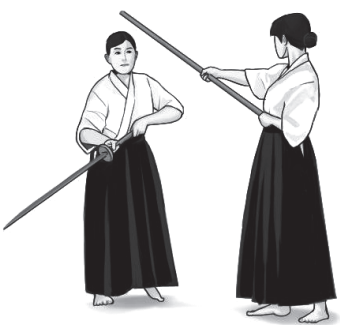
令和六年三月には段位中央審査会と当部会の講習会が開催しました。

この中央審査会において新杖道八段が誕生致しました。宮城県では三人目になりますが、今後のご活躍をお願い致します。

この一年間、コロナ禍やインフルエンザなど疫病流行が繰り返すなか何とか諸行事を行うことが出来ました。これも県剣連の指導によるものと感じています。

今後とも県剣連のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いをして、令和五年の活動報告とします。

以上



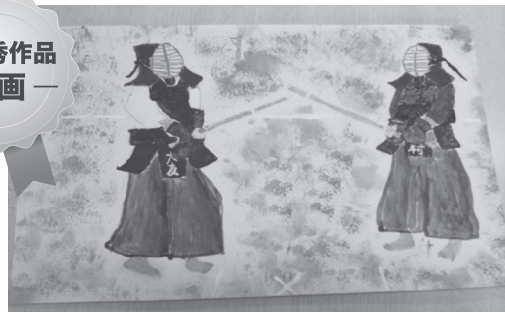
(一財)宮城県剣道連盟創立70周年記念

作品コンクール入賞者一覧

※学年は令和4年度

最優秀作品
— 写真 —

花釜 幸さん
「三本木のゆかいな仲間たち」
(一般・三本木館山剣道スポーツ少年団)

最優秀作品
— 絵画 —

大友 咲希さん
「勝負」
(名取市立
下増田小学校4年・
名取市剣連)

最優秀作品
— 作文 —

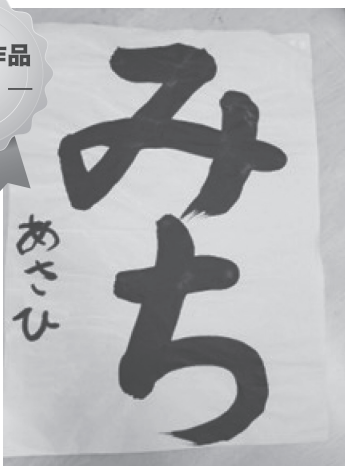
僕が剣道をやって良かったことは大きく分けて3個あります。
1つ目は体が予想以上鍛えられた事です。知らず知らずの間に足の筋肉が鍛えられてそれにより跳躍力が上がりました。それによって立ち幅跳びや走り幅跳び、反復横跳び、50m走など生活に使えるスポーツがより得意となり学校でのモチベーションも上がりました。

2つ目は作法についてです。剣道は日本の格闘技ということで、道場に入るときに礼をする。座り方と立ち方。など作法がたくさんありました。その中でも不思議だと思った作法は、立礼です。立礼は相手への敬意を示す動作で、それにはちゃんとした形があります。僕はその中で「なぜ相手と戦うスポーツなのに、敬意を表しているの?」という疑問を、始めたころは抱いていました。そこで、稽古している相手が面をつけ直した時にたまに先生が言っている「せっかく練習しに来ている相手に迷惑をかける」という言葉に注目しました。そこで思ったのが、一緒に稽古をしてくれる相手がいるからこそ自分を高めていくことができるから、その相手を尊重して感謝の気持ちを表すのではないかということです。そのことに気づいてから日常でも相手の意見をいつもより聞くようになりました。

3つ目は、色々な経験ができたということです。最初に剣道を始めたときは、楽しい経験ができるということだけを考えていました。もちろん楽しいこともたくさんありましたが、そのほかにもルールを守る事だったり、話を聞く力だったり、集中力などが剣道では重要になってくることが分かりました。

それらのことは学校活動などでも、特に先生や友達との関わりの中で生かされました。道場は、剣道を学びたい色々な年齢の人が集まってくるので、友達が増えます。その友達と上手く接するというのは難しいことでした。学校と違い、先輩や後輩がいるからです。先輩は僕より年齢が高い人もいるし、先輩は僕より年齢が低い人もざらにいます。そういう仕組みの中誰でも関係なく接するのは、僕には難しいので、それを課題にしたいです。さらに先輩や先生は礼儀を働かせないといけないので、自然に剣道をやっている中で礼儀が身につけてきて学校でも自然に礼儀ができるようになり、近頃は先生に褒められることも多くなってきました。

以上のように僕は剣道を始めて良かったと思うことはたくさんあります。剣道を始めていなければ身につけなかったスキルもあると思います。これらことを学校生活により良く繋げていけたらと思います。

最優秀作品
— 書道 —

今野 あさひさん
「みち」
(仙台市立広瀬小学校2年・愛子少年剣友会)

天野 慧海さん
「剣道を始めて良かったこと」
(仙台市立長命ヶ丘小学校6年・あらた道場)

優秀作品

作文

小学生	柏葉 安親さん	「ぼくと剣道」 (仙台市立広瀬小学校1年・愛子少年剣友会)
	門間瀬音杜さん	「はじめての大会、はじめての1本」 (仙台市立荒町小学校2年・あらた道場)
	佐藤佳乃子さん	「剣道に入って良かったこと」 (巨理町立巨理小学校3年・巨理町少年剣道錬成会)
	齊藤 千夏さん	「わたしと剣道」 (仙台市立栗生小学校4年・愛子少年剣友会)
	千葉 沙月さん	「剣道をしていてよかったこと」 (仙台市立六郷小学校5年・六郷スポーツ少年団剣道部)
中学生	佐々木りくさん	「『夢実現』に向かって」 (大崎市立古川第五小学校6年・三本木館山剣道スポーツ少年団)
	今野 錬さん	「千日の努力」 (仙台市立広瀬中学校1年・愛子少年剣友会)
	二瓶 瑞穂さん	「本当の私」 (大崎市立古川西中学校2年・古川西中学校剣道部)
大人・一般	福沢壮之助さん	「剣道を通して学んだこと」 (仙台市立南中山中学校3年・あらた道場)
	及川 直人さん	「剣道の教育的価値」 (蔵王町立宮中学校教諭)

写真

中学生	村上 頼人さん	「日常」 (蔵王町立宮中学校2年・宮中学校剣道部)
-----	---------	------------------------------

絵画

小学生	相澤 青輝さん	「面打ち」 (仙台市立六郷小学校3年・六郷スポーツ少年団剣道部)
	菊池 泉希さん	「メン！」 (仙台市立加茂小学校4年・台原体振少年剣道部)
	蟹澤 心陽さん	「手で打つな足で打て、足で打つな腰で打て、腰で打つな心で打て」 (仙台市立若林小学校5年・あらた道場)
大人・一般	佐藤 匠さん	「出ばな面」 (富谷市立立吉台小学校6年・富ヶ丘剣友会)
	大内 利絵さん	「親子の絆」 (高砂剣道教室)

書道

小学生	合津 怜音さん	「竹刀」 (富谷市立富ヶ丘小学校・あらた道場)
	佐々木愛輔さん	「かつ」 (仙台市立高砂小学校2年・高砂剣道教室)
	青田 滯希さん	「剣道」 (巨理町立逢隈小学校3年・逢隈少年剣道錬成会)
	菅原 慧さん	「心気力」 (仙台市立長命ヶ丘小学校4年・あらた道場)
	菅原 儀さん	「至誠」 (仙台市立長命ヶ丘小学校4年・あらた道場)
	平山 雄登さん	「剣」 (山元町立山下第一小学校6年・山元剣道スポーツ少年団)
	佐藤 倫彰さん	「剣」 (蔵王町立宮中学校1年・宮中学校剣道部)
中学生	菊地 綺音さん	「克己心」 (岩沼市立岩沼北中学校2年・岩沼北中学校剣道部)
高校生	酒井顕太郎さん	「錬磨」 (築館高校1年・築館高校剣道部)
	及川 大地さん	「姿勢」 (築館高校2年・築館高校剣道部)
大人・一般	今野まどかさん	「錬心養気」 (愛子少年剣友会)

佳作

作文

小学生	相原 太治さん	「剣道をはじめたきっかけ」 (仙台市立六郷小学校1年・六郷スポーツ少年団剣道部)
	岩佐 純怜さん	「けんどうをやってます」 (山元町立山下第二小学校1年・山元剣道スポーツ少年団)

小学生	伊藤晴太郎さん	「し合に出たい」 (仙台市立南吉成小学校3年・あらた道場)
	岩佐 有清さん	「けんどうのぼくのこと」 (山元町立山下第二小学校3年・山元剣道スポーツ少年団)
	五十嵐晟羽さん	「剣道で学んでいること」 (仙台市立北中山小学校5年・あらた道場)
	高田 一磨さん	「剣道の良さ」 (仙台市立大野田小学校6年・六郷スポーツ少年団剣道部)
	及川 文陽さん	「剣道で見つけた目標」 (仙台市立蒲町小学校6年・七郷少年剣道クラブ)
中学生	佐藤 凱斗さん	「剣道を通して学んだこと」 (仙台市立七郷小学校・七郷少年剣道クラブ)
	海老沢太一さん	「剣道をはじめて」 (仙台市立南中山小学校6年・あらた道場)
	大須賀昊優さん	「仲間の大切さについて」 (仙台市立高森中学校2年・あらた道場)
大人・一般	阿部 蒼大さん	「経験」 (仙台市立根白石中学校2年・あらた道場)
	蟹澤 逸平さん	「剣道を通して学んだこと」 (仙台市立八軒中学校3年・あらた道場)
大人・一般	佐藤 裕之さん	「剣道と剣道部から気持ちを持ち離さない」 (大崎市立古川西中学校教諭)

写真

中学生	佐藤 由悟さん	「高みを目指す一人の剣士」 (蔵王町立宮中学校2年・宮中剣道部)
大人・一般	猪俣 三夫さん	「小さなライバル」 (多賀城大代剣道教室)
	佐々木ちづるさん	「ぼくのデビュー戦」 (三本木館山剣道)
	古川 昭夫さん	「全日本剣道連盟居合」 (立志会)

書道

小学生	合津 采音さん	「克己」 (富谷市立富ヶ丘小学校1年・あらた道場)
	高橋 洸裕さん	「竹刀」 (栗原市立築館小学校2年・築館剣道スポーツ少年団)
	三浦 笑里さん	「道合」 (南三陸町立伊里前小学校3年・道合剣道)
	千葉 克己さん	「一本」 (仙台市立六郷小学校3年・六郷スポーツ少年団剣道部)
	佐藤 恭典さん	「面」 (山元町立坂元小学校3年・山元剣道スポーツ少年団)
	星 絢心さん	「残心」 (巨理町立巨理小学校4年・巨理町少年剣道錬成会)
	笠原 理玖さん	「竹刀」 (栗原市立築館小学校4年・築館剣道スポーツ少年団)
	今野 頼さん	「平和」 (仙台市立広瀬小学校5年・愛子少年剣友会)
	佐藤 佑樹さん	「竹刀」 (栗原市立築館小学校5年・築館剣道スポーツ少年団)
	櫻井 瑛都さん	「勝利」 (仙台市立中野栄小学校・高砂剣道教室)
中学生	大内 楽斗さん	「剣」 (仙台市立新田小学校6年・高砂剣道教室)
	鈴木 士生さん	「熱」 (仙台市立田子小学校6年・高砂剣道教室)
	森田 陽介さん	「剣気体」 (仙台市立錦ヶ丘小学校6年・愛子少年剣友会)
	笠原 琉衣さん	「修練」 (栗原市立築館中学校1年・築館剣道スポーツ少年団)
高校生	平間 巧人さん	「十年一剣」 (蔵王町立宮中学校2年・宮中剣道部)
	酒井 優介さん	「錬磨」 (築館高校1年・築館高校剣道部)
	佐藤 智浩さん	「姿勢」 (築館高校2年・築館高校剣道部)
大人・一般	遠藤嘉志子さん	「武」 (三本木館山剣道)
	宇都宮弘和さん	「剣道耕人」 (河北剣道スポーツ少年団)

宮城県剣道連盟創立70周年記念

第10回東日本少年剣道練成大会



令和5年5月21日(日) セキスイハイムスーパーアリーナ



小学生の部
優勝:有鄰館(福島県)



小学生の部
準優勝:岩沼西少年剣道
練成会



小学生の部
第3位:尚武殿一森山道場



小学生の部
第3位:愛子少年剣友会



閉会式

表 彰

- 創立70周年記念作品コンクール最優秀賞
- 全日本剣道連盟少年剣道教育奨励賞
古城剣修館 六郷スポーツ少年団剣道部
護国館剣道スポーツ少年団 鶴ヶ谷剣心会

開 会 式

- 主催者挨拶 宮城県剣道連盟会長 井上 雅勝
- 来客挨拶 河北新報社事業局長 山田 淳 様
宮城県企画部長 武者 光明 様
利府副町長 櫻井やえ子 様
- 審判長挨拶 齋藤 浩二
- 選手宣誓 聖ドミニコ学院中学校 稲富 悠花 選手

公開演武

- 木刀による剣道基本技稽古法 愛子少年剣友会
- 模範稽古 宮城県警察剣道特別強化訓練員

閉 会 式

● 表 彰

中学生女子の部

- 優 勝 聖ドミニコ学院中学校
- 準優勝 蛇田中学校
- 第3位 南小泉中学校・鳴峰中学校

中学生男子の部

- 優 勝 岩沼西中学校
- 準優勝 古川南中学校
- 第3位 仙台第一中学校・一戸中学校(岩手県)

小学生の部

- 優 勝 有鄰館(福島県)
- 準優勝 岩沼西少年剣道練成会
- 第3位 尚武殿一森山道場・愛子少年剣友会
- 主催者挨拶 宮城県剣道連盟副会長 今村 幹雄

◆ 模範稽古

宮城県警察剣道特別強化訓練員



◆ 木刀による剣道基本技稽古法

愛子少年剣友会



◆ 小学生の部



優勝:有鄰館(福島県)



有鄰館/中堅菅野 敬さん(6年生)
優勝してうれしい。一緒に試合をした仲間は今まで自分を支えてきてくれたので、これからもよろしくという思い。練習は週に4回している。先生方とのやり取りはつらく感じる時もあるが、これからは練習を頑張る。保護者のサポートがありがたい。

優勝:聖ドミニコ学院中学校



◆ 中学生女子の部

◆ 中学生男子の部



優勝:岩沼西中学校



宮城県剣道連盟創立70周年記念
河北新報社杯争奪

第69回 宮城県市郡对抗剣道大会 第40回 宮城県女子団体对抗剣道大会



令和5年9月17日(日) 加美町中新田体育館



開会式:
主催者挨拶 会長 井上 雅勝



開会式:
来賓祝辞 加美町長 西山 英樹 様



閉会式:
閉会宣言 副会長 佐藤 悦朗



閉会式:
主催者挨拶 副理事長 佐々木 栄幸

開会式 公開演武

●日本剣道形

打太刀 教士七段 太田 廣幸
仕太刀 教士七段 太田 幸蔵

●杖道形

打太刀 範士八段 村上 直隆
仕杖 教士七段 村上 和繁

●制定居合

立合 教士八段 庄子 都代子
演武 教士七段 村上 宜央
演武 錬士七段 松本 満知子
演武 錬士六段 日向 裕昭
演武 五段 星野 和巳

閉会式

●表彰

市郡对抗剣道大会

優勝 宮城県警察
準優勝 青葉区
第3位 柴田郡・加美郡

女子団体对抗剣道大会

優勝 宮城県警察
準優勝 青葉区
第3位 石巻・白石刈田

◆日本剣道形



◆杖道形



◆制定居合



試合風景



市郡対抗剣道大会



準優勝:青葉区



第3位:柴田郡



第3位:加美郡



優勝:宮城県警察

女子団体対抗剣道大会



優勝:宮城県警察



準優勝:青葉区



第3位:石巻



第3位:白石刈田



負けからの気づき

全国教職員剣道大会 準優勝 武田 直弘

令和五年八月十日に島根県で開催された全国教職員剣道大会に出場させていただきました。男子個人の部で決勝まで勝ち進みましたが、決勝で京都の選手に敗れ第二位という結果でした。本大会には過去十度出場し、団体戦や個人戦の入賞は幾度か経験させていただいておりましたが、今回も優勝には届かず悔しく思っております。

今大会に限らず各種試合においては、結果にかかわらず多くの学びがあります。

教職員という立場で、生徒を指導し、また自らも競技者として大会で結果を残すことを目標に稽古を積むということは大変意義深いことであると感じます。

本年度を振り返ると、今大会も含めて、最後まで勝ちきることができず、負けることが多かった一年でした。そのたびに自身の剣道や取り組みを反省してきました。しかし、十分だと思えるほどの稽古の量を確保することは難しく、また、心身ともにベストな状況で毎度練習できることも限りません。周りの環境のせいにして、「もう試合に出ることもやめてしまおうか」と思うこともあ

りました。

悩んでいたとき、大学時代にお世話になった恩師の先生から「大人になつてから試合を見るたびに進歩している。あなたは四十歳まで選手を続けなさい。まだまだこれから」という言葉をいただき、また他にも多くの方々からの励ましもあつて、また試合、勝負に挑戦しようという勇気をもつことができました。剣道に対する自身の解釈を広げて以前よりも大きい視野をもつことができるようになりその結果、今まで以上に稽古に対する意欲が湧いてきて、改めて剣道の魅力に気づくことができました。

剣道は年齢を重ねるほど、木の幹が年輪を重ねるように太くたくましくなっていくべきだと、尊敬する先生から教えていただいたことがあります。自分の理想とする姿に近づけるよう努力し、その成果が試合という場において発揮されるよう今後も稽古を積んでいこうと思えます。また、指導者としても恩師の先生方のように、人の心に勇気の灯をともせるような人間になれるよう精進してまいりたいと思っております。